

[投稿]

ACECC 第2回理事会ソウルにて開催

日下部 治

Osamu KUSAKABE

ACECC Secretary General 土木学会ACECC担当委員会委員長
正会員 Ph. D 東京工業大学教授 工学部土木工学科

昨年9月に発足したアジア土木学協会連合協議会 (Asian Civil Engineering Coordinating Council, 略称 ACECC. 学会誌 99年12月号参照) の第2回理事会が4月25, 26日の両日, ソウルの大韓土木学会 (KSCE) の本部ビルで開催された. 参加学協会は, 発足時メンバーの JSCE, KSCE, ASCE, PICE (フィリピン土木学会), CICHE (台湾土木水工学会) の5学会に加えて, 今回参加申請のあったベトナム土木学会 (VCA) とオブザーバー参加のオーストラリア工学会土木部会の計7学会, 参加者総勢30名であった. 日本側からは ACECC 会長の岡田宏元土木学会会長, 第2回アジア土木技術国際会議 (CECAR) の住吉幸彦組織委員長, 寺師昌明幹事長, ACECC 事務局の芹野恵美子氏と ACECC Secretary General を務める筆者の5名が参加した.

今回討議された主な内容は, (1) 定款・規則の修正と APEC 使用言語との整合性の徹底, (2) CECAR 開催国の nomination rule の確定, (3) 技術委員会の結成ルール確定, (4) 新メンバーの参加承認, (5) 1999 年度活動・決算報告, (6) 2000 年度活動・予算承認, (7) 第2回 CECAR の計画報告と討議, の7項目である.

議題(1)は, 昨年9月に合意された定款・規則の言葉の定義の明確化と, 台湾, 香港などを独立した経済圏として認め合う APEC の用語を全面的に採用するため

あり, 議題(2)は, ACECC の主な活動である CECAR の継続性を確保するためのルール作りで, このルール確認後, KSCE が非公式に第3回 CECAR の開催希望を述べ, 継続的な発展が約束された. 議題(3)は ACECC の技術的活動を促進するためのルール作りのためであり, このルールにしたがって各専門的分野におけるアジアネットワークによる技術委員会設立の環境が出来あがった. 議題(4)は, ベトナム学会の ACECC メンバーへの参加承認であるが, 政治組織・経済事情のちがいがから, 学会名称, 予算規模について厳しい意見がだされたが, 賛成多数で参加が認められた. これにより ACECC は6学会となり傘下に約25万人の土木技術者の会員をもつ組織に成長したことになる (JSCE 4.1 万人, KSCE 1.3 万人, ASCE 12.3 万人, CICHE 0.4 万人, PICE 6.0 万人, VCA 0.7 万人). オブザーバーで参加したオーストラリアも理事会後, 参加希望を表明している. また議題(7)では来年4月16~18日まで東京で開催される第2回 CECAR の会議テーマ, セッション構成, 費用分担など活発な意見が交わされ, 来年4月に向けて多国的協力と準備体制が整い, 魅力的な土木技術の国際会議の姿が見えてきた.

1998 年以来 JSCE の発案と主導によって結成された国際的な土木学会のアジアネットワーク連合体の組織・運営の基礎が, この第2回理事会の議論を通じてほぼ確立したといえよう. また, 第2回 CECAR の具体的運営方針, さらに, 第3回 CECAR 開催国が非公式であるが固まった. 残る課題は, 組織の拡大につれ必要となる恒常的な事務局の設置である. 日本の学会にその役割を期待する声もあるが, わが国のアジアにおける歴史的な背景をわきまえつつ, また ASCE など他学会との力学バランスも慎重に配慮しながらこの問題に対処すべきように思われる. それには土木学会会員の ACECC 活動への理解とサポートが必須である. なお次回第3回 ACECC 理事会は10月16日シアトルで開催される.

(2000年5月8日・受付)



写真 ACECC 第2回理事会初日